



ようこそ！ 市長室へ

28



自身でできる自然災害への 大切な備え

3人の尊い生命を犠牲にしてしまった、平成22年の7・15豪雨災害から、5年が経ちました。

あの災害以降昨年度までに、可児川改修をはじめとする災害対策事業に、岐阜県と可児市合わせて40億円近い事業費を投入してきました。しかしながら、まだまだ災害対策には多くのお金と時間が必要です。自然の脅威の前には、もう大丈夫という対策は不可能といっても過言ではないでしょう。

もう一つ、7・15豪雨災害で学んだことは、一旦天災害が発生すると、多くの情報が氾濫し、必要な対応に追われ市役所や消防、建設業をはじめとする民間の応援隊の活動も、本当に限られてくることです。個々



の被災者への対応は、すぐにはほとんど手が回らないという現実です。でも、豪雨災害はある程度予測でき、事前に避難などの対応が可

能です。過去の経験や、洪水、土砂災害のハザードマップを確認し、ご自宅が浸水や土砂災害を被る可能性があります。ご自身の状況に合わせて「どういう状況になったら避難が必要か」「2階などへ避難すれば大丈夫なのか」「心配の少ない地域なのか」ご自身で把握しておいてください。避難が必要であれば、「お身体の不自由な方や、小さいお子さん、妊婦さんはどうするのか」「手助けが必要か」「夜間だったらどうするのか」。そんなことを考えていただくために、7・15豪雨災害以降毎年6月に水防訓練を実施しています。ぜひ年に1回は、家族みんなで避難経路や、別々の場所にいた場合の集合場所など確認し合ってください。避難時に支援の必要な方の頼りになるのは、自治会、自主防災組織、自衛消防隊、防災支援隊など地域の皆さんです。日頃からの近所付き合いは、いざというときのためにも、本当に大切なことです。

また、「すぐメールかに」に登録すれば、災害情報が配信されます。ケーブルテレビ可児やFMららでも緊急放送を行います。FMららでは、無料専用アプリをダウンロードして、スマートフォンやタブレットで



聴くこともできます。遠隔地からも、可児市の情報が確認でき便利です。

一方、地震は事前予測ができません。大地震の時、被災者の救助で大きな力を発揮できるのが、やはり自治会などの組織です。このことは、阪神淡路大震災や東日本大震災でも明らかになりました。毎年9月第1日曜日には大地震を想定した防災訓練を行います。防災訓練やさまざまな地域行事に参加し、日頃からお互いが見える関係を築くことも、ご自身でできる、安心につながる大切な「備え」です。

可児市長 宮本成伸